

特集 おもしろ研究・先生IV

怪異が伝えるメッセージ



世の中はフシギなコトで満ちています。

三重大学人文学部・准教授 山田 雄司
【URL】 <http://onryo.syuriken.jp/>

伊勢神宮の内宮にて



臨川書店より▶

◎神のお告げ!?どう対処する?

せまる彗星、鳴動する山、群飛する蝶、汗をかく仏像、神社の社殿に巣を作る鳩…。こうした現象は、その後何か大きな事件や災害が勃発する予兆と考えられていました。現代を生きる私たちからしてみれば何でもないことも、昔の人にとっては驚異だったのです。それは、自然の中で生きていた人々にとってはむしろ当然なことで、少しの変化にも神の意志を感じて対処しようとしていたのです。

国家と関わりの深い場所で怪異が発生すると、それが朝廷に報告され、朝廷では神祇官^{しんぎ}*1や陰陽寮^{おんみょうりょう}*2による占いが行われて怪異の原因が究明され、これから何が起るのか、どのような対応をとったらいいのか判定が下されました。そしてそれに基づいた対応が施されました。そのため、伊勢神宮で発生する怪異には特に注意が払われていたのです。



◎頼みの綱は加持祈祷

日本において怪異が信じられていたのは、古代・中世という時代でした。そのころの日本社会は「呪術的宗教」におおわれていました。国家や天皇のための加持祈祷が行われていたのをはじめ、民間では巫女や陰陽師が活躍し、人々は日々の吉凶に左右されて行動していました。度重なる疫病・災害・飢饉・戦乱の前になすすべがなく、「呪術的宗教」に頼っていたのです。そこで、危険を未然に察知しようと、怪異に対する認識も高まったのでした。

◎故きを温ねて新しきを知る

現代では怪異を信じる習慣はありません。しかし、こうした「呪術的宗教」に傾倒していた人々を、我々は一笑に付すことはできないのではないのでしょうか。怪異は自然を畏怖し敬っていた古代・中世人の心象であり、よこしまな行為をただす機能も果たしていたのです。利便性を追求して自然を破壊してきた我々は、温暖化、異常気象、環境破壊といった地球的規模の危機に直面しています。こうした中、神と近かった時代の人々の生き方・考え方をあらためて見直していく必要があるのではないのでしょうか。



*1 神祇官…神社を監督する官庁
*2 陰陽寮…陰陽道(中国伝来の陰陽五行説に基づき、天文、暦数などの知識を用いて吉凶を占う)をつかさどった役所

古今東西不思議な現象

中世の伊勢神宮では

- 1 神馬が失踪
- 2 馬はどこへ?
- 3 突然の帰還

伊勢神宮の判断 神による国家の擁護

現代 2008.5.12の中国・四川大地震の前にヒキガエルが一斉移動